

I. ムーソルグスキイ

Modest Petrovich Mussorgsky (1839-1881)



ロシアの作曲家。

彼の生涯は極めて不安定なものであり、その死去によって最も重要な作品の幾つかが未完のまま残された。

オペラ作品と独唱歌曲の分野に偉大な業績を残している。他に類を見ない独特の和声を用い、また声楽作品においては、叙情的で、しかも話し言葉の抑揚に忠実な音楽語法を生み出した。

ムーソルグスキイは19世紀後半のロシアで最も個性的な作曲家であった。

(『ニューグローヴ世界音楽大事典』より)

組曲「展覧会の絵」 Tableaux d'une exposition

この組曲はムーソルグスキイの代表的な器楽作品であるばかりでなく、19世紀ロシアの生んだ最も独創的なピアノ音楽である。

曲は「絵」にちなんで10曲の小品と前奏、間奏の役割を果たす「プロムナード」でできおり、その配列の見事さもさることながら、ムーソルグスキイ独特の大胆な独創性が全曲に横溢している。

1873年、親交のあった急進的な建築家ヴィクトル・ガルトマン(ハルトマン)が死んだ。翌年1月にその遺作展がペテルブルクの美術学校で行われ、会場には設計図やスケッチ、あるいは各種のデザインが400点以上も展示された。それをみたことがこの組曲の作曲の動機になっている。

(『最新名曲解説全集』より)

ムーソルグスキイ 年表

<生 涯>		<主な作品の作曲>
3月21日プスコフ県カーレヴォ村に生まれる	1839	
母親の手ほどきで1年前に始めたピアノが著しく進歩	1846 (7才)	
近衛士官学校入学	1852 (13才)	
父の死	1854 (15才)	
プレオブラジェンスキー連隊入隊、 軍医ボロディーンと出会う。 冬、ダルゴムイシスキーと知り合う	1856 (17才)	
ダルゴムイシスキー家でキューイー、バラークレフと知り合う	1857 (18才)	
音楽に専念するため連隊退役	1858 (19才)	
農奴解放令、一家は経済的打撃を受ける	1861 (22才)	
運輸省技術局就職	1863 (24才)	
母の死、アルコール依存症始まる	1865 (26才)	
リムスキー＝コルサコフとの交友始まる	1866 (27才)	
役所のリストラにあう	1867 (28才)	禿山の一夜(初稿)
国有財産省林野局再就職	1868 (29才)	ボリース・ゴドゥーノフ第1稿(1868～69)
秋からリムスキー＝コルサコフと同居	1871 (32才)	ボリース・ゴドゥーノフ改訂(1871～72)
	1872 (33才)	ホヴァーンシチナ(1872～80) 禿山の一夜(第2稿)
ガルトマン急死。7等文官へ昇進	1873 (34才)	歌曲集「子供部屋」
ガルトマン 回顧展	1874 (35才)	5月 歌曲集「忘れられた者」 6月 展覧会の絵 7月 ソローチンツィの定期市(1874～80) 9月 モスクワ河の夜明け 11月 歌曲集「日の光もなく」 禿山の一夜(最終稿)
上級係長昇進	1875 (36才)	歌曲集「死の歌と踊り」
6等文官へ昇進、会計監査院へ配置替え	1877 (38才)	
健康上の理由で役所を退職	1880 (41才)	
3月28日サンクトペテルブルクで死去	1881 (42才)	

『ムソルグスキイ「展覧会の絵」の真実 / 一柳富美子』より

II. ガルトマン (ハルトマン) Victor A. Hartmann (1834-1873)



建築家

1834年ペテルブルクに医師の子として生まれた。

1852年美術アカデミーに入学し、建築を学ぶことを決意した。

1862年、公共図書館のデザインで金メダルを受賞し、海外旅行の特権を得、ポーランド、イタリア、ドイツ、イギリスを経て、フランスに長期滞在し、各地を旅行して、1868年に帰国した。帰国後は、なぜか西欧ではなく逆にロシア的なものへの傾斜を強めていったらしい。

1869年にはキエフの門再建のためのコンテストに参加し、「展覧会の絵」の「キエフの大門」のモチーフとなった設計図を作りあげた。コンテストはなぜか中止になり、門の建設は実現しなかった。

ムーソルグスキイの言葉

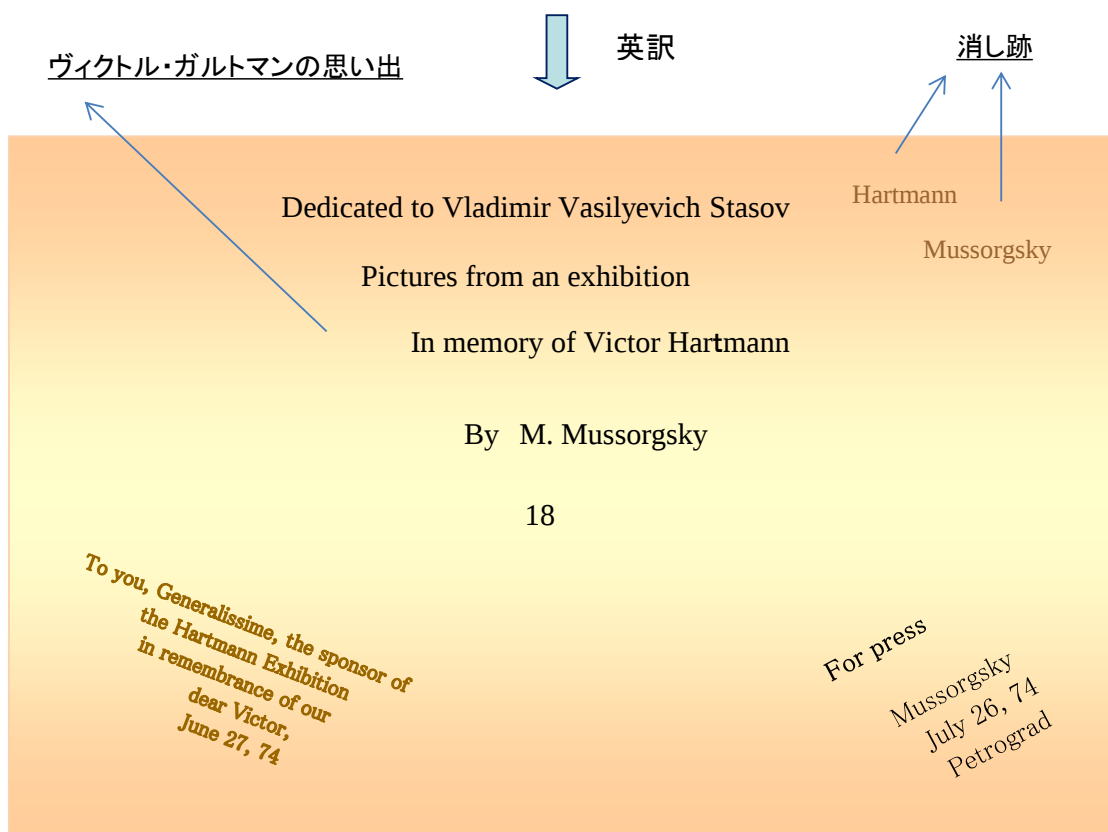
1870年ごろムーソルグスキイと出会った。二人の交友は、わずか3年ほどしか続かず、1873年7月、モスクワ郊外のキレーボでなくなった。

「建物は、外観が美しいだけでなく、よく計画され、基礎がしっかりしており、建築の目的が感じられ、芸術家の精神がこめられているからこそ美しいのです。ガルトマンには、それができるのです。」

『『追跡ムソルグスキー「展覧会の絵」 / 團伊玖磨、NHK取材班』より]

III.「展覧会の絵」 自筆譜のタイトル・ページ

※配付資料には画像を紹介



[[『Pictures from an exhibition for piano : facsimile / Izdatel' stvo・Muzyka 』解説より]

IV. 組曲「展覧会の絵」の構成

*の付いた絵はムソルグスキーの曲との関連が確認されていない

*各曲のタイトルは『クラシック音楽作品名辞典』による

*譜例は『Bilder einer Ausstellung / M. Mussorgskij. Henle』(C22-238)による

プロムナード Promenade

※配付資料には譜例を掲載



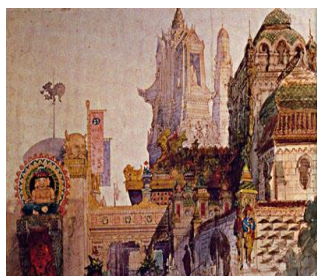
*

小人 Gnomus

※配付資料には譜例を掲載



プロムナード



*

古城 II vecchio castello

※配付資料には譜例を掲載



プロムナード



*

テュイルリー:遊んだあとの子供のけんか
Tuileries: dispute d'enfants apres jeux

※配付資料には譜例を掲載



*



ブイドロ(牛車) Bydlo

※配付資料には譜例を掲載

プロムナード



卵の殻をつけたひなどりのバレエ Ballet de poussins dans leurs coques

※配付資料には譜例を掲載



ザムエル・ゴルデンベルクとシュムイル Samuel Goldenberg et Schmuyle

※配付資料には譜例を掲載



プロムナード



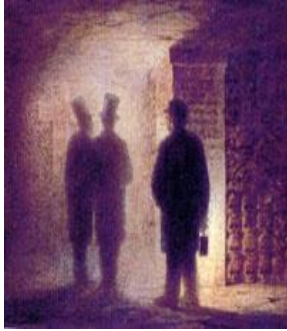
*

リモージュの市場 Limoges, le marche

リモージュはフランス中部の町

※配付資料には譜例を掲載





*

カタコンブーローマ時代の墓

ここにはガルトマン自身らしい人物が描かれている

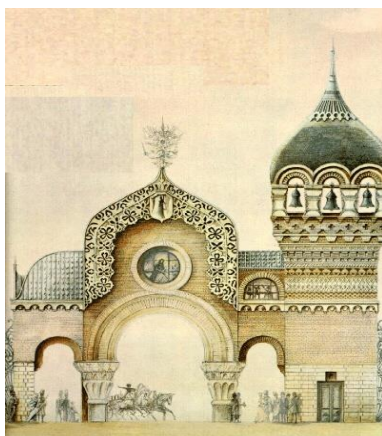
※配付資料には譜例を掲載

プロムナードの変奏



鶏の足の上に建っている小屋 La cabane sur des pattes de poule

※配付資料には譜例を掲載



キエフの大きな門 Le grande porte de Kiev

※配付資料には譜例を掲載

V.「展覧会の絵」の版について

- *1) 『ムソルグスキー「展覧会の絵」の真実 / 一柳富美子』
- *2) 『展覧会の絵：ヴィクトル・ハルトマンの思い出 / Mussorgskij. 音楽之友社』まえがき
- *3) CD『展覧会の絵-5態』解説

1874年 6月14日から7月4日の3週間で**ムソルグスキー**は<<展覧会の絵>>を書き上げた。*1)

ムソルグスキーの生前には公式初演も、出版もされなかった

リムスキー=コルサコフが改訂して、
1886年ベテルブルグのベッセル社から初めて出版された。*1)

彼は、随所にみられるムソルグスキーの大胆な音楽的表現を訂正してしまうのが好意的だと信じたので、作品はオリジナルの姿では印刷されなかった。*2) *p.9 参照

“ボリス・ゴドゥノフ”や、19世紀後期の他の多くのロシアの作品の原版が世に知られ始めたのは、ようやく近年のことである。
それは主に、ニコライ・リムスキー=コルサコフがそうした諸作品に編集の手をくわえてしまったからである。
彼は、自国の作曲家達の作品を広範に改訂し、編集し、そして或るときは、未完作品を完成した。残念なことに、穏当な様式— ロシア的な意味ではなく、西欧的な意味で— というものへの彼の熱心さが、編集者にあるべき慎重な配慮をしばしば越えてしまい、彼が行なったそれらの原曲の「改善」の試みは、時に、原作者の意図を裏切ってしまう。
例えば、“ボリス・ゴドゥノフ”については、今日一般に、リムスキー=コルサコフによって洗練化された改訂版よりも、ムソルグスキー自身による、多くの「粗雑さ」を含む版の方が遥かに優れている、と見做されている
[『ヨーロッパ音楽の歴史 / デイヴィッド・G・ヒューズ』より]

1931年 オリジナルの姿の<<展覧会の絵>>がモスクワ国营音楽出版社とウィーンのユニヴァーサル社から、ムソルグスキー全集第8巻、第2分冊として出版された。

校訂者の**パウム・ラム**は、自筆譜にもとづいて学問的に修正した版を作り上げたが、これはソヴィエトやその他の国でも再版された。*2) *p.11 参照

1975年 自筆譜のファクシミリ版が出版された。

1982年 再版。

[『ロシア音楽の魅力：グリムカ・ムソルグスキー・チャイコフスキー / 森田稔著』より]

* 譜例 p. 11 参照

自筆譜ファクシミリでは、デュナーミクやアクセントの付け方が普及している他社のいわゆるオリジナル版とはかなり違う。
これは1930年代に旧全集を校訂したラムの誤りがそのまま広まってしまったことが原因である。
[CD『オリジナル・ピアノ版によるムソルグスキー』解説より]

第4曲 <ブィードロ>

4曲<ブィードロ>についてである。これはズバリ、牛車のこと。

[途中略]

・・・友人のリムスキー＝コルサコフも、校訂の際、荷車の動いている様をより明確に描写するために、冒頭を pp (ピアニッシモ[とても弱く])で開始して次第にクレッシェンドするよう加筆したのだ。

もっとも、この pp への書き換えは大問題だ。原曲が ff (フォルティッシモ[とても強く])で始まっているのには、理由があるからである。もしも、リムスキー＝コルサコフのような情景なら、ムソルグスキーは重い物を引き摺って苦役している人をただボーッと見ているだけということになる。

民衆の中へ入りたい彼には、それは出来ない。誰かが苦しんでいたら、駆け寄って手を差し伸べて、一緒に苦役を分かちう--- これこそがムソルグスキーの思想である。だから、いきなり ff ではじまるのだ。

『ムソルグスキー「展覧会の絵」の真実 / 一柳富美子』より]

リムスキー＝コルサコフ編 Breitkopf & Hartel (C13-400)

※配付資料には譜例を掲載

全集 Dover (C21-396)

Reprint: Editions de musique de l'URSS. **Moscow**, 1939 (Oeuvres complete / M. Moussorgsky ; v. 8)

※配付資料には譜例を掲載

VI. 編曲について

[リムスキー=コルサコフの改訂版に]興味を持った**トゥシマー・ロフ**という作曲家がオーケストラ的な響きを見いだして、編曲し、
1891年 に出版され、演奏会でも取り上げられるようになった。 *1)

1922年 スウェーデンのヴァイオリン奏者兼指揮者の**レオ・フンテク**が、ラヴェルがカットした
ブロムナードを含む完全オーケストラ版を発表。 *3)

1922年 **ラヴェル**は指揮者のセルゲイ・クーセヴィツキーから、《展覧会の絵》の
オーケストレーションを依頼された。
それを心から喜んだラヴェルは、かなり短期間に管弦楽化の筆をすすめたようであり、
1922年10月19日には、クーセヴィツキーの指揮によって[パリの]オペラ座で初演され、
大成功を収めた。 [『作曲家別名曲解説ライブラリー ラヴェル』より]

クーセヴィツキーの委嘱を受けてすぐ、ラヴェルは親しい友人の批評家ミシェル・D・カルヴォコレッソに、
《展覧会の絵》の「ムソルグスキーのオリジナル・エディション」を持っていないかどうか尋ねている。
しかしカルヴォコレッソは、ムソルグスキーの死後、1886年にベッセル社から出版され、リムスキー＝
コルサコフによって編集された版しか提供できなかった。
それゆえ、ラヴェルは不本意なことに、知らず知らずの内に、ムソルグスキーのピアノ組曲に施された
リムスキー＝コルサコフの修正をそのまま受け入れることになった。
[『組曲《展覧会の絵》 / ムソルグスキー＝ラヴェル、全音』序文より]

1937年 フィラデルフィア管弦楽団のバス・クラリネット奏者だった**ルシアン・カイエ**(1891-1984)が、
そのオーケストラの管の名手たちをフィーチャーさせた色彩的なアレンジを発表。 *3)

1939年 当時フィラデルフィア管弦楽団の常任指揮者であった**レオポルド・ストコフスキー**
(1882-1977)が全く違ったオーケストラ版を発表。 *3)

1954年 ロシアの指揮者**セルゲイ・ゴルチャコフ**(1905-1976)によるオーケストラ版。
それまでリムスキー＝コルサコフ版によるピアノ版からのアレンジだったのが、初めて原典版からの
編曲である、という点で注目される。 *3)

1982年 ピアニスト兼指揮者の**ヴラディーミル・アシュケナージ**(1937-)による[オーケストラ]版。
ムソルグスキーの描いた世界を忠実に再現させた。 *3)

1994年 ブルガリアの作曲家**エミール・ナウモフ**による[ピアノとオーケストラ]編曲。 *3)

*2台ピアノ版 譜例 p.12 参照

1997年 イギリスの**ローレンス・レナルド**による[ピアノとオーケストラ]編曲。 *3)

ほかに、吹奏楽版、ブラス・アンサンブル版、管楽五重奏版、オルガン版、
ギター版、シンセサイザー版、中国楽器版、ロック版などがある。 *3)

VII. 譜例 ～プロムナードを例に～

自筆譜 ～ 全集

1. 自筆譜ファクシミリ (Izdatel'stvo・Muzyka) K00-602

※配付資料には譜例を掲載

2. 全集 (C21-396)

Reprint: Editions de musique de l'URSS. Moscow, 1939 (Oeuvres complete / M. Moussorgsky ; v. 8)

※配付資料には譜例を掲載

いろいろな編曲

3. Maurice Ravel による
オーケストラ編曲
(Boosey & Hawkaes)
A00-711

※配付資料には譜例を掲載

4. Emile Naoumoff
によるピアノとオーケ
ストラ編曲
(2台ピアノ版)
(Schott)
C26-702

※配付資料には譜例を掲載

5. Leopold Stokowski
によるオーケストラ編曲
(Henmar Press)
C06-325

※配付資料には譜例を掲載

6. Alan Civil による管楽五重奏編曲 (Broadbent & Dunn) D19-807

※配付資料には譜例を掲載

7. 山下和仁によるギター編曲 (現代ギター社) C11-632

※配付資料には譜例を掲載

8. Henk de Vlieger
による 打楽器編曲
(Donemus)
D12-545

※配付資料には譜例を掲載